

【 南魚沼市指定文化財一覧表 】(令和3(2021)年11月1日現在)

※ 画像の無題転載は禁じます。

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
1	大	無形民俗 芸能	若宮八幡宮神楽舞		S46.10.18	一村尾	若宮八幡宮神楽保存会	<p>いつ頃始まったかは不明であるが、慶応元年(1865)の記録に残されているので、この頃にはすでに行われていたようである。明治初年、北川岸次に依頼して27面を作り、32面を備えて26座として神前で舞われてきた。</p> 
2	六	無形民俗 芸能	畔地神楽		S47.4.21	畔地	畔地神楽保存会	<p>芹間刑部忠光公(職名按察使)の家臣に芸達者な者がおり、他の家来と一緒に管弦、舞踊、神楽、狂言を演じ、百姓たちを招き楽しませていたのが起源といわれている。明治中葉に中魚沼赤倉からきた木挽職人の指導により盛んになり現在に伝わっている。</p> 
3			欠番					
4	六	天然記念物	城内八海山表山元里宮御神木(杉)		S47.4.21	長森	八海神社	<p>八海神社前庭の中央にある均整のとれた美樹。高約30m、目通周囲6.3m、樹根部には土盛がなされており、樹勢はよい。</p> 
5	塩	絵画	宮人の図	1幅	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	<p>作者は江戸浅草、北斎門下の有坂北馬。密画を得意としている文政3年(1820)6月10日から8月3日まで牧之を訪ね、牧之も江戸に出かけた際には、北馬を訪ねている。また上十日町の和歌神社にも北馬の絵が奉納されている。</p>
6	塩	絵画	美人の図	2幅	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	<p>鈴木牧之画賛、読書の図、愛狎の図と呼ばれている。</p>
7	塩	絵画	遊女の図	2幅	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	<p>鈴木牧之画賛の図である。牧之は吉原扇屋の花扇なども文通があった。19歳の時、縮80反を携えて江戸に行った。この時の事を「東遊記行」に著し、その中に両国、品川、吉原の記述がある。</p>
8	塩	絵画	関羽の像	1幅	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	<p>牧之が孫の将来を祝って関羽の像を大幅に画いた。賛は、牧之と親交の深かった雲洞庵海雲禅師に依頼した。文化9年(1812)、牧之43歳の作といわれている。箱書は、橋本独山がしている。</p>

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
9	塩	絵画	父母の像	1幅	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之の画に、雲洞庵海雲禪師が賛したものである。父は幼名を与之助といい、21歳の時恒右衛門と改名した。母とよは、姥島村種村幸右衛門の長女で、19歳で嫁いできた。機織の名人で、近所の子女にもその技術を教えた。ここに、描かれた父が、牧之像のモデルと言われている。
10	塩	絵画	大田南畝書 (六曲屏風)	半双	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之が50歳の時、耳の治療のために江戸に行った際に書いてもらったもの。南畝は江戸後期の文人で、洒落本・黄表紙・滑稽本を得意とした。屏風に仕立てた時の縁の朝顔と雀の図は牧之が描いたものである。
11	塩	絵画	亀田鵬斎書 (六曲屏風)	半双	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之が50歳の時、耳の治療のために江戸に行った際に書いてもらったもの。鵬斎は江戸後期の儒学者で折衷学派であった。通称文左衛門と呼ばれていた。屏風に仕立てた時の縁の朝顔と雀の図は牧之が描いたものである。
12	塩	絵画	山水・花鳥 (六曲小屏風)	1双	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之の自画賛を張り合わせた小屏風。山水の一番右が64歳と書かれているほかは、亡くなる前の年72歳のものである。
13	塩	絵画	張込六曲屏風	半双	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	文政5年(1822)、牧之53歳の時に、それまでの収集品を張り交せて屏風に仕立てた。鈴木家の家族の絵や俳句、書などを中心に親戚の作品も見える。
14	塩	絵画	坂戸城絵図	1枚	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	文化14年(1817)牧之48歳の時、坂戸山に登った際に描いた絵図。絵図には紙が張られ説明が追加されている。 
15	塩	絵画	塩沢村名所絵図	1枚	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	天保4年(1833)牧之とその養子の牧山によって描かれた絵図。天和2年(1682)の検地の資料に基づいて描かれ、塩沢村の開発の様子がわかる。
16	塩	絵画	越後の図(写)	1枚	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	文政元年(1818)に岡野町(旧高柳町)村山家より借りて写したものである。村山家と鈴木家は、関係が深く、牧之の妻うたが村山家から嫁ぎ、牧之の娘のおくわには村山家から蔵吉を婿に迎えて養子にしている。
17	塩	絵画	樺太絵図(写)	1枚	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	いつ頃のものか不明。江戸時代の後半になると、牧之をはじめ庄屋、地主の中には、広く世界に目を向けた人たちが出てくる。
18	塩	絵画	中華の図(写)	1枚	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之は天明4年(1784)に中華十三省図を写している。翌年、村松藩主堀丹波守が参勤交代の折にこれを献上している。その時の控がこの写しである。

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
19	塩	絵画	世界地図(版本)	1枚	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	世界地図については、いつ頃のものが不明である。
20	塩	絵画	家大人肖像	1幅	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之の父恒右衛門の肖像画である。風雅の道もたしなみ、和漢の書を読み、周月庵牧水と号して俳諧も得意とした。牧之は、この父の影響を家業だけでなく、学問文芸においても強く受けた。
21	塩	絵画	十返舎一九の狂歌	1幅	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	文政元年(1818)4月26日、一九が牧之宅を訪れた際に書いたのがこの狂歌である。後姿の父親が左手に扇を開き持ち、右手に横向きの男の子の手を引いている。狂歌は、親骨があつてこそ扇は風を起こすことができると、親の役割を軽妙に表している。
22	塩	書蹟	周月庵発句集	1冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之の父恒右衛門は、周月庵牧水と号し、魚沼では名の知られた俳人であり、俳匠として地域の指導者の一人であった。牧之はかねてより父の句集をまとめようと考へ、父の没後文政4年によく成ったのがこの発句集である。牧水の句が四季に分けて1400句ほど並んでいる。巻末には、牧水が安政4年(1857)、奥羽を廻った時の「周月庵牧水湯殿山記行」が収めてある。
23	塩	書蹟	北越雪譜(初版本)	7冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	雪国越後の民俗・習慣・伝説・産業などについて書かれた随筆集。初編・二編とに分かれ全部で7冊から成る。29歳のときに最初の原稿を江戸の山東京伝に送り、滝沢馬琴・岡田玉山・鈴木芙蓉・山東京山らとのかかわりあいの中で日の目を見たのは最晩年であった。 
24	塩	書蹟	塩冶判官一代記	1冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	執筆年代不明、南北朝時代を舞台に出雲守護塩冶高貞の一代記を物語化したもので、『太平記』をもとに創作した小説である。
25	塩	書蹟	周月庵・宇多女追善集	1冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	周月庵は牧之の父文恒右衛門のこと。宇多女は牧之の妻、岡野町の村山家から嫁ぎ、48歳で没した。『周月庵弄菊仙牧水追善集』には冒頭に辞世の句が掲げられているほか87人の句、歌、漢詩が収めてある。『荊妻宇多追善集』は、牧之の句を最初に載せる31人の追善集である。
26	塩	書蹟	張交屏風国所性名帖	1冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	本帖は、牧之および父牧水の交友簿で、その人数は300人以上にわたり、それぞれの居所や通称などを並記している。文政5年(1822)1月、牧之53歳の時作成された。牧之の生涯における交友の範囲を知る上で貴重な資料である。
27	塩	書蹟	夜職草稿本	1冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之が64歳のときに書いた別本で仮表紙の「夜職草」である。これは紙数も少なく抄録で、今成喜市、同造酒蔵、鈴木長吉、同大蔵、同弥八等一族の者に写させ、月に1度ずつ見て出精の励みにさせようとしたものである。

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
28	塩	書蹟	短冊扣帖 (雅友発句集)	1冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之とその父牧水の交友から届いた俳句短歌を牧之が書き写したもの。人物の解説もほどこしてある。
29	塩	書蹟	越後短冊百人一首 他邦短尺百人一首	2冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	『越後短冊百人一首』は1頁に5枚宛、牧之の交友、俳人の句を貼り込む。数は40葉、短冊の右側に作者の住所、姓名を墨書。表題のとおり、越後関係者の分である。『他邦短冊百人一首』は、30句、ともに後半に余白部が多いので、表題どおりの百人の俳句を企図したことがうかがわれる。
30	塩	書蹟	諸国筆鑑	8冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之は広く諸国の文人墨客と交わり、書簡をはじめ色紙短冊を交換している。贈られたものは、屏風、巻物にしたり、住所姓名録を作成して家宝とし、後世に遺そうと心掛けた。
31	塩	書蹟	牧之交遊人名簿	2冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之と交遊のあった人の名簿。その幅は広く、俳人、歌人、書家、画家、儒者、国学者、神官、僧侶、戯作者、医者、藩士、歌舞伎役者、吉原の名妓花扇と多岐にわたる。
32	塩	書蹟	和歌短尺帖	1冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	友人の和歌の短冊を張合わせたもの。6つ折全40枚の短冊が張られる。
33	塩	書蹟	百首短冊帖 (小屏風型)	3冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之の友人達の短冊を小屏風型に百首ずつ貼り、整理したものである。3冊に分かれ、いずれも他邦。
34	塩	書蹟	永世記録帖	2冊	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	『永代記録帖』と『永世記録二番帖』の2冊がある。前者は一番帖ともいい、鈴木家初代からの年代記とともに、牧之の誕生より文政3年(1820)8月5日(牧之51歳)までの記録がつづられている。後者は二番帖と呼び、文政3年8月21日から文政11年9月19日(牧之59歳)までの記録である。いずれも牧之の自筆記録である。
35	塩	書蹟	短冊	1幅	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	鈴木牧之による短冊5枚。
36	塩	書蹟	書翰集 (巻物未表装)	1点	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	諸国の雅友からの書簡を巻物に仕立てたもの。太田蜀山人、亀田文左衛門、蹄斎北馬、谷文五郎、歌川豊国の名前が見られる。
37	塩	書蹟	書翰集 (巻物仕立)	6巻	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之父子と交遊のあった人々から来た手紙を6巻に集成したものである。「仁 雲井乃雁」「義 鯉魚書」「礼 鴻音」「智 雁帛」「信 鴻音」「当国雁書天」とそれぞれの巻に題名がついている。ほかに書簡を一覧表形式にして、差出者名、居所、通称等を注記した2綴りの交友者人名簿がある。
38	塩	書蹟	亀鑑 (表彰状張込)	1巻	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	牧之の行った数々の善行に賜った表彰状を張り込んで残したもの。

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説	
39	塩	書蹟	短冊張合せ	1幅	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	京伝、馬琴、京山、一九、牧水、牧之の7枚の短冊を紙軸に仕立てたもので、牧之没後100年祭の時に屏風からはがして、1幅にしたと考えられる。	
40	塩	書蹟	一九、牧之狂歌合せ	1幅	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	一九は『東海道中膝栗毛』の著者であり、狂歌師でもある。牧之は文政2年(1819)江戸に行った時に訪ねたことがある。文政9年には一九が牧之宅に逗留した。その時の歌合せである。	
41	塩	史跡	南山古墳1号墳	1基	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	南山古墳群は、背後に栢窪峠を控える丘陵上東斜面、標高約200m付近に立地する。1号墳は昭和36年(1961)、県道改修工事の際に発見され、調査が行われた。直刀、刀子、鏝、須恵器埴などが出土している。築造された年代は、7世紀前半頃に造られたものと考えられる。	
42	塩	史跡	南山古墳2号墳	1基	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	2号墳は径7.2mの円墳で、墳丘の三方に周溝が廻り、墳丘裾には貼石を持つ。遺体を納める石室は、20~40cm大の自然石を積んだ横穴式石室である。副葬品は須恵器坏蓋、坏身、長頸壺、勾玉、切子玉、管玉、白玉等が出土している。築造された年代は、おおよそ7世紀中頃と考えられる。	
43	塩	史跡	糠塚古墳1号墳	1基	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	糠塚古墳群は、鎌倉沢川が形成する扇状地扇中央部に立地する。その北約150mには万貝古墳が存在する。1号墳は径10mの円墳で、墳丘の裾には20cmほどの川原石が張られ、周溝が廻る。埋葬施設は両袖型の横穴式石室である。出土遺物は、玄室から直刀、刀子、鉄鏃塊、金銅製耳環、瑪瑙製勾玉、蛇紋岩製白玉、ガラス小玉が、羨道閉塞石中からは土師器坏、高坏脚部、須恵器などが出土している。古墳の築造時期は出土品などから6世紀末頃と考えられる。	
44	塩	史跡	糠塚古墳2号墳	1基	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	糠塚2号墳は、径11mの円墳で、周溝が廻り、墳丘裾には礫がまばらに置かれている。埋葬施設は無袖型の横穴式石室である。玄室内から鏝、刀子、鉄鏃、翡翠製勾玉、瑪瑙製勾玉、ガラス小玉、金銅製耳環が、周溝底部から土師器高坏が、封土中から須恵器が出土している。	

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
45	塩	工芸品	火流紙	1箱	S47.6.5	塩沢	南魚沼市	黒田玄鶴の石綿論によって作られた燃えない紙である。牧之も北越雪譜の中でこれについて触れており、火流布、火流紙と火流墨の製法にも成功しているが、没すると同時にその術も消えてしまい大変残念である、と述べている。
46	六	彫刻	如意輪観世音大士像	1体	S49.2.25	上大月	上大月区	木喰上人の文化2年(1805)9月4日の作である。 
47	六	彫刻	興教大師像	1体	S49.2.25	長森	満願寺	木喰上人の文化2年(1805)8月25日の作である。田崎のものと同じの木材を背割りして彫られたものとみられる。 
48	六	彫刻	弘法大師像	1体	S49.2.25	田崎	田崎区	木喰上人の文化2年(1805)8月23日の作である。満願寺のものと同じの木材を背割りして彫られたものとみられる。 
49	六	彫刻	役行者像	1体	S49.2.25	泉新田	個人蔵	木喰上人の文化2年(1805)8月24日の作である。杖と荷袋を背負う。 
50	六	書跡	紙本掛軸	1巻	S49.2.25	君帰	個人蔵	木喰上人の文化2年(1805)の作である。「このつちで おこるあたまを ひとつちよ いけんはいらぬ これぞちかみち 天一自在法門八十八才 木喰五行」 

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
51	六	書跡	紙本掛軸	1巻	S49.2.25	寺尾	個人蔵	<p>木喰上人の文化2年(1805)の作である。 「龍水 天一自在法門 八十八才 木喰五行」</p> 
52	大	史跡	浦沢城址		S56.3.30	浦佐	浦佐大区	<p>普光寺の背後標高300mに立地する。東西に伸びた尾根を利用し主郭を築き、その西端は尾根を切り通す大空堀で遮断する。西、東側には袖曲輪を配し、一部は土塁と空堀で固めている。御館の乱の際、城将清水藤左衛門は景勝側に属し、北条氏の攻勢から城を守り抜いた。</p> 
53	大	史跡	雷土城(板木城)址		S56.3.30	雷土	雷土区	<p>雷土と魚沼市板木の境界を走る尾根上に立地する。板木城ともいう。主郭を中心にして四方に派生する尾根に向かって大小の郭、空堀を配し十字形に築いている。</p> 
54	大	史跡	三ツ塚	3基	S56.3.30	穴地新田	共睦会	<p>南北に約6mの間隔で3基の塚が並んでいる。かつて塚上には自然石の板碑があり、そこに刻まれた年号から南北朝時代に築かれた塚であると推測されている。</p> 
55	大	史跡	浄源塚	1基	S56.3.30	雷土	三用小学校同窓会	<p>直径約13m、高さ約2mの塚で、その上には老杉がそびえている。塚の傍らにはどんな日照りにも枯れたことがないといわれている井戸がある。その昔、浄源という旅僧がこの地を通った時、村人は渴きに苦しみながら働いていたため、井戸を掘ることを勧める。しかし水は出なかったため、浄源は自分が生き埋めになるので塚を築いてくれと村人に頼んだ。そうしたところ井戸からは水が限りなく湧いてきた、という伝説が残っている。</p> 

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
56	大	天然記念物	穴地の一本杉	1体	S56.3.30	穴地	穴地区	<p>目通りの回り5.3m、高さ約30mで、根元には石祠がまつられている。往昔はここを通る人々の道しるべとなっていた。</p> 
57	大	天然記念物	大崎のてんまる杉	1体	S56.3.30	大崎	大崎大区	<p>大崎の入口にそびえる一本杉で、目通りの回り5.3m、高さ約25mで、根元には庚申塔などの石碑が立ち並んでいる。平成30年(2018)、台風により幹が裂ける大きな被害を受けた。</p> 
58	大	建造物	上村家住宅	1軒	S56.10.1	荒山	個人蔵	<p>元文2年(1737)の造立で、茅葺入母屋作り、桁行8間半、梁行4間の3間造りである。材料には松材が多く使われている。</p>
59	塩	彫刻	木造千手観音像	1体	S56.11.24	長崎	槻岡寺	<p>慶長元年(1596)に開創された曹洞宗水龍山槻岡寺の観音堂に祀られている。観音像は鎌倉時代のもので、行基菩薩作と伝えられている。膝から下はもっと古く平安時代末期のものと言われている。寄木造りで両肩の部分は江戸時代に補修している。</p> 

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
60	塩	考古	南山、糠塚古墳出土品	一式	S60.3.29	塩沢	南魚沼市	<p>○糠塚1号墳:直刀3・刀子3・鏝1・鞘尻2・貴金具1・鉄鏃塊・須恵器壺2・須恵器甕6・土師器坏2・土師器高坏1・金環5・勾玉2・白玉1・小玉132が出土している。</p> <p>○糠塚2号墳:鏝1・鞘尻1・刀子片4・鉄鏃1・須恵器片・土師器高坏・金環3・勾玉6・管玉1・丸玉11・切子玉1・小玉100が出土している。また北側の周溝から内面を黒色処理された土師器高坏が検出されている。脚部は1号墳出土高坏と異なり短脚である。また封土中や周辺より須恵器片が採集されている。</p> <p>○糠塚3号墳:貴金具1・金環4・勾玉2・管玉1が出土している。</p> <p>○糠塚4号墳:直刀片・刀子片・土師器坏1・貴金具・鉄鏃が出土している。</p> <p>○万貝古墳:馬具・直刀2・鉄鏃1・須恵器平瓶1・須恵器埴1・勾玉3・銀環3が出土している。万貝古墳は糠塚古墳群の北約150メートルに立地する。</p> <p>○南山1号墳:須恵器埴1・直刀3・刀子1・鏝2が出土している。</p> <p>○南山2号墳:須恵器坏身2・須恵器坏蓋6・長頸壺1・勾玉5・切子玉3・白玉1・管玉1・直刀1・刀子3が出土している。</p>
			 <p>糠塚1号墳出土遺物</p>					
			 <p>万貝古墳出土遺物</p>					
61	塩	考古	吉峰遺跡出土品 玦(けつ)状耳飾	1対	S63.10.25	塩沢	南魚沼市	<p>玦状耳飾は滑石や蛇紋岩などの柔らかい石を加工して、1ヶ所に切りこみを入れ、穴をあけた耳たぶにはめて使ったと考えられる装飾品である。吉峰遺跡出土品は、縄文時代前期後半のものと考えられ、石材は蛇紋岩で、乳緑白色で光沢を持つ。2点とも完全な形で出土しており、非常に優品である。その出土状態から、身体に装着された状態で埋葬されたと考えられる。玦状耳飾そのものの価値はもちろん、縄文時代における墓制を考える上でも重要な資料である。</p>
								

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
62	大	美術工芸品	銅鏡	1体	H3.3.30	市民会館	南魚沼市	<p>水上遺跡から出土した直径11cmの極薄型銅鏡で、縁は欠損しており、正確な大きさは不明である。鎌倉時代に作られたものと考えられる。文様面や紐は削り取られ、鏡面には高5.5cm最大幅1.5cmの勢至菩薩が取り付けられた珍しいものである。</p> 
63	大	美術工芸品	線刻絵画	1体	H3.3.30	新潟県立歴史博物館	南魚沼市	<p>柳古新田下原A遺跡から出土した、粘板岩に刻線をもって描かれた縄文絵画。鋭利な石器による複雑な線刻で狩りをする人物像が描かれている。</p> 
64	大	美術工芸品	人体模型	1体	H3.3.30	市民会館	南魚沼市	<p>大正12年(1923)に篤志家より浦佐小に寄贈された北川岸次創作指導による人体解剖模型。皮膚を外すと、肺、肝臓等が現れ、肺を外すと心臓が現れ、消化器、頭部、血管、骨格が容易に取り出し復元ができる。</p> 
65	塩	有形民俗	奉納越後上布織	20点	H3.10.25	南田中	砂押神社	<p>砂押神社所蔵の長さ44~110cm、計20点の上布織。機織りする女性が作業の上達を祈念し砂押神社に奉納したもので、寛政から明治の各年代の製品が保存されている。</p> 

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
66	塩	彫刻	木造毘沙門天立像	1体	H3.10.25	塩沢	個人蔵	<p>本像は平安時代末期の作で、ヒノキ材で一部乾漆を併用している。顔は丸く眉を寄せへの字の口を結び、平安時代11世紀後半頃の中央的作風を如実に反映した代表的な形といえる。制作当初は彩色されていたとみられる。</p> 
67	塩	彫刻	明見尊像	1体	H4.4.1	塩沢	個人蔵	<p>木喰上人の文化2年(1805)9月15日の作で、鱧木彫り、一本の木を四つに割って彫刻したという。材質はイチョウの木で一木造り、木喰独特の幾何学台座の上に結跏趺坐している。</p> 
68	塩	彫刻	神変大菩薩立像	1体	H4.4.1	吉里	吉里区	<p>木喰上人の文化2年(1805)9月10日の作で、一木造り、材質は不明、長い年月、護摩行の行われた寺の本堂に安置されていたため、像の全体がつややかな黒色に煤けている。</p> 
69	塩	彫刻	観世音大師像	1体	H4.4.1	小木六	小木六区	<p>木喰上人の文化2年(1805)9月28日の作で、鱧木彫り、一本の木を二つに割って彫刻している。宝髻から白衣をかぶり、両手を胸の前に組んで合掌し、蓮華座に結跏趺坐している。円光背の表に、光明真言の梵字あり、背銘に種子字「サ」「正観世音大士」と書かれている。</p> 

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
70	塩	彫刻	愛宕地蔵大菩薩像	1体	H4.4.1	塩沢	徳昌寺	<p>木喰上人の文化2年(1805)9月15日の作である。本来、一本の木を二つに割って制作したものと考えられる。徳昌寺には、以前対となる子安観音像があつたらしいが現存しない。イチヨウの木の材質で一木造り、円形頭光背には光明真言を墨書、裏面には種子字「カ」を墨書。台座は荷葉蓮華、法衣をつけ合掌した姿はほぼ左右対照型である。</p> 
71	塩	彫刻	薬師如来像	1体	H4.4.1	吉里	吉里区	<p>木喰上人の文化2年(1805)9月6日の作である。イタヤカヤデ材の一木造りで子安観音大士像と互いに対をなす。後年、光背の一部を除き全体に彩色がほどこされ木肌は見えないが、白毫・眉・唇の色は当時のものとみられる。</p> 
72	塩	彫刻	子安観世音大士像	1体	H4.4.1	吉里	吉里区	<p>木喰上人の文化2年(1805)9月3日の作である。イタヤカヤデ材で一木造り、同じく安置されている薬師如来像とは対をなし、一本の木を二つに割って制作されている。後年、光背の一部を除いて、全体に彩色がほどこされ、木肌は見えないが眉、唇の色は当初からのものとみられる。</p>
73	塩	彫刻	欄間彫刻	7面	H4.4.1	思川	天昌寺	<p>曹洞宗飯盛山天昌寺本堂にはめ込まれた10面の彫刻欄間。このうちの7面は、武州熊谷(現埼玉県熊谷市)出身の小林源太郎の彫りである。厚さ約30cmの樺板に中国の故事に由来する狩野派の絵を浮き彫りにし、籠彫りという手法が用いられている。制作年代は嘉永7年(1854)で霊外雲秀和尚の時である。</p> 
74	塩	彫刻	・山ノ神尊像 ・吉祥天女尊像	2体	H4.4.1	栃窪	栃窪区	<p>栃窪の鎮守十二神社に安置されている2体の木像で、木喰上人の文化2年(1805)9月11日の作である。材質はドロの木(泥柳)で一木造り。山ノ神と吉祥天が対をなしていることは珍しい。</p> 

71 薬師如来像 72 子安観世音大士像





番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
75	塩	古文書	慶長三年雲洞村検地帳	1冊	H8.4.24	雲洞	個人蔵	慶長3年(1598)に、上杉氏は会津へ移封となり、越後には堀氏が入ってくる。同年、雲洞村と片田村において検地が行なわれた際のものである。検地帳には、名請人(所有者)が記載されているが、後半部は荒田畑が書き上げられ、名請人の箇所「会津へ参給人」と添書したものがあり、上杉氏と共に会津へ移っていったものが示されている。
76	塩	古文書	清水口留番所文書	15通	H8.4.24	清水	個人蔵	清水峠の登り口にあたる清水は、戦国期には直路城が築かれるなど関東に通ずる要衝であった。江戸時代には、人と交易を取り締まるため、口留番所が置かれ、領主等からの申渡書が伝えられている。
77	塩	古文書	栃窪口留番所文書	5通	H8.4.24	栃窪	個人蔵	上田庄と妻有庄を結ぶ栃窪峠は越後府内や信州へ抜ける要衝である。慶長3年(1598)上杉氏が会津に移封になり、堀氏が坂戸城に入ると、栃窪峠に口留番所を置き、交通と交易を取り締まった。その際の書状である。
78	塩	工芸品	坪池神社罌口	1点	H8.4.24	坪池	坪池区	<p>鑄鉄製で、中央の撞座両面には菊花が鑄出される。外側の銘帯には、銘文が線刻され、その由来を示す。正保4年(1647)に大崎村の大工である金井長右衛門によって鑄造され、神社の改築の際、奉納されたという。</p> 
79	六	古文書	堀監物寄進状	1冊	H9.2.17	余川	宝珠院	<p>慶長3年9月26日、堀直奇の父である堀監物から坂戸山頂の富士権現の管理役であった宝珠院に対し、寺領として10石を寄進するという旨の文書。</p> 
80	六	古文書	堀丹後守寄進状	1冊	H9.2.17	東泉田	永昌庵	<p>上杉氏の後に坂戸城に入った堀直奇が帰依・保護するため永昌庵に出された、手作地10石と門前2軒の免税を認めるという文書。</p> 
81	六	史跡	道宗塚	1基	H9.2.17	坂戸	個人蔵	<p>坂戸城主長尾越前守政景の墳墓。旧竜言寺跡の境内と伝えられる場所に立地する。塚名の由来は政景の法名による。大きさは10m四方、高さ2m。 天正6年(1578)4月の記銘で「長尾越前守」と刻まれた自然石の古碑が残る。</p> 

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
82	六	無形民俗 芸能	五十沢歌舞伎		H9.2.17	清水瀬	五十沢歌舞伎保存会	<p>文政年間、清水瀬の桑原関十郎が佐渡で唄や踊りを習得し藤村姓を師匠からいただき、帰郷後五十沢でその普及に努めた。その後土沢の江部氏に引き継がれ伝承される。現在は五十沢歌舞伎保存会が組織されている。</p> 
83	大	建造物	毘沙門堂楼門		H9.7.1	浦佐	普光寺	<p>浦佐村若松屋(関市四郎)の寄進により、天保2年(1831)に建てられた。建立にあたり二日町の内藤藤蔵棟梁が日光陽明門を参考にしたと伝えられている。楼下の天井には、谷文晁作の双竜図板絵がある。楼上には毘沙門天使者二十八使者の仏像がある。天井には仏画師板谷佳舟による天女の舞姿絵が、側面には十六羅漢修行の図と釈尊出山の図が描かれている。</p> 
84			欠番					
85	塩	工芸品	石綿論版木	1組 (5組)	H12.2.28	大沢	個人蔵	<p>大沢村宮在家の医師黒田玄鶴が文政5年(1822)に著した、火流紙等の原料・製法・用途等を記したもの。玄鶴は、江戸で版を起こし、出版した際の版木5枚が現存している。</p>
86	塩	古文書	黒田玄鶴訴訟書	1巻	H12.2.28	南田中	個人蔵	<p>石綿の製法を発明したのは黒田玄鶴だけでなく、塩沢村の種村喜右衛門も同じ時期に発明した。二人は、石綿をめぐる争い、その際の訴訟書が残されている。</p>
87	六	古文書	大福細工覚帳	1冊	H16.5.20	舞台	個人蔵	<p>太良兵衛が40年間にわたり制作した2945点の作品名、注文主、価格等を克明に記録した自筆の制作記録帳で、石仏美術史、産業史の上からも貴重な資料である。</p> 

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
88	六	彫刻	・大日如来像 ・金剛薩埵像 ・愛染明王像	3体	H16.5.20	小川	養徳寺	<p>文化11年(1814)太良兵衛25歳の作。大日如来像は自然石を用いた半肉彫の坐像。脇侍として向って右に愛染明王像、左に金剛薩埵像を配する。</p> 
89	六	彫刻	二十三夜塔	1基	H16.5.20	下原	下原区	<p>文政2年(1819)太良兵衛30歳の作。養徳寺42世住職専頂の揮毫。文字の上部に半肉彫りによる勢至菩薩像を配する。</p> 
90	六	彫刻	役行者像 (太良兵衛作)	1体	H16.5.20	畔地	畔地区	<p>文化13年(1816)太良兵衛27歳の作。自然石を用いた半肉彫。長い顎髭をたくわえ、裾の短い衣をまとい、一本歯の高下駄を履く。左手に巻物を、右手に錫杖をもつ。役行者の下には、前鬼、後鬼の二匹の鬼を配する。</p> 
91	六	古文書	上杉謙信書状	1体	H18.7.20	法音寺	法音寺	<p>法音寺から例年通り年頭祝儀として巻数と銭30足が贈られてきたことに対する礼状。</p> 

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
92	六	古文書	堀丹後守寄進状	1体	H18.7.20	法音寺	法音寺	<p>慶長5年(1600)、法音寺に寺領として高20石を寄進するという旨の文書。</p> 
93	六	古文書	岩倉伝右衛門書状	1体	H18.7.20	法音寺	法音寺	<p>江戸時代初期、岩倉伝右衛門から法音寺に対して出されたもの。従来からの寺領のほか、荒地を開墾すればその所有を認めるというもの。</p> 
94	六	古文書	荻田主馬書状	1体	H18.7.20	法音寺	法音寺	<p>法音寺の来訪を受けたにもかかわらず、十分にもてなすことができなかったことを詫びたもの。</p> 
95	塩	古文書	上杉謙信朱印状	1通	H21.5.28	樺野沢	龍澤寺	<p>天正5年(1577)、上杉謙信が龍澤寺に対し、龍澤寺の門前5軒の諸役を免除するという旨の文書。</p> 
96	塩	彫刻	木造如意輪観世音菩薩坐像	1軀	H21.5.28	樺野沢	龍澤寺	<p>江戸時代初期に上州(群馬県)から移住してきた林武兵衛という人物が奉安し、先祖供養と家運安穩、寺門繁栄を祈願したという。一木割矧造りの像高27.8cmで室町時代の作とみられる。</p> 

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
97	大	史跡	旧三国街道(栃原峠)		H23.4.27	境川	境川区	江戸時代初期に開削された三国街道の新道で、浦佐と堀之内を陸路で結ぶ。それまでは浦佐から対岸へ渡り小出島を経由していた。峠の頂上には茶屋跡や井戸跡などが残る。 
98	大	古文書	普光寺文書群	22通	H23.4.27	浦佐	普光寺	上田長尾氏、上杉謙信、堀氏や諸国の武将の寄進状等の中世から近世の古文書22点。 (写真:上杉謙信輝虎寄進状) 
99	大	彫刻	<ul style="list-style-type: none"> ・大山不動明王像 ・大黒天神像 ・吉祥天女尊像 	3体	H24.5.29	大崎	大崎院	木喰上人の文化2年(1805)8月26日～28日の作で、3体のうち大山不動明王像は像高110cmで南魚沼地域では最大級である。なお、「大山」は木喰上人が修業した地と伝えられている。  大山不動明王像 大黒天神像吉 祥天女尊像
100	大	彫刻	薬師如来像	1体	H24.5.29	名木沢	名木沢区	木喰上人の文化2年(1805)閏8月7日の作である。像高63cm、材質はイタヤカエデである。もともと近くの尼寺にあったというが現在は区で管理している。 

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
101	大	彫刻	大黒天像	1体	H24.5.29	今町新田	個人	<p>木喰上人の文化2年(1805)8月の作である。</p> 
102	六	彫刻	慈源大師像	1体	H24.5.29	長森	満願寺	<p>木喰上人の文化2年(1805)の作である。近年、満願寺の分寺(現在は廃寺)から移されたもの。平安時代初期の真言宗の僧で、修験道の開祖とされる理源大師の像といわれている。理源を慈源とした経緯は不明である。</p> 
103	大	彫刻	愛染明王像	1体	H25.4.24	九日町	個人	<p>木喰上人の文化2年(1805)閏8月19日の作である。南魚沼地域では湯沢町にも愛染明王像がある。その台座は藍甕であるがこちらは蓮台である。</p>
104	大	彫刻	穴地十二社の雲蝶彫刻	1式	H26.6.25	穴地	穴地区	<p>穴地十二社は棟札によると元治元年(1864)に現在の社殿が完成した。その時に向拝、手挟と欄間の彫刻を石川雲蝶が行っている。欄間の「酒吞童子の大江山の鬼退治」は修験者の烏帽子の見当が残り未完成であることがうかがえる。</p>   

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
105	大	彫刻	龍谷寺の雲蝶・源太郎彫刻	10面	H26.6.25	大崎	龍谷寺	<p>文久年間に石川雲蝶と小林源太郎によって彫刻された欄間。雲蝶は「猿」、「麒麟」、「唐獅子と牡丹」、「得誠和尚の行履」、「葡萄と朝顔」、源太郎は「鳳凰」、「唐獅子」をそれぞれ作成した。</p> 
106	大	天然記念物	普光寺ケヤキ群	8本	H27.4.24	浦佐	普光寺	<p>普光寺境内にある目通り周り約4～7mの大ケヤキ群。推定樹齢はそれぞれ250～400年。吉祥ケヤキ、長寿ケヤキ、夫婦ケヤキと呼ばれるものがある。</p> 
107	塩	無形 工芸技術	大正期確立の紡績技術を活かした越後上布・越後縮		H27.7.22	目来田	塩沢織物工業協同組合	<p>【指定要件】 ・経糸は苧麻を紡績した糸、緯糸は苧麻を 手績みした糸を使用すること ・緋は緋くびり、摺り込み、捺染のよること ・いざり機、高機による手織りで織ること ・しぼとりは湯もみ・足踏みによること ・さらしをする場合は雪ざらしによること</p>  <p>国の重要無形文化財に指定されている小千谷縮・越後上布は全て手績みの糸が使用され、いざり機で織られてきた。明治に入り紡績技術が輸入されると、大正初期にこの地域でも苧麻を紡績した麻糸(ラミー糸)が導入され、ラミー糸を使用した製品が生産されるようになった。</p>

番号	区域	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者 管理者	解説
108	六	有形民俗	城内のダイモチゾリ	1台	H28.2.25	五十沢 収蔵庫	南魚沼市	<p>城内八海神社に嗽鉢(うがいばち)を奉納するため、五十沢津久野から城内山口まで石材を運搬するために製作された。その後、五日町駅から上原の製糸場まで蒸気罐を運搬する為にも使用された。</p> 
109	塩	彫刻	阿弥陀如来坐像	1体	R1.8.29	上野	関興寺	<p>関興寺に伝わる木造の仏像で、鎌倉時代前期ころに慶派仏師により制作されたものと考えられる。像内腹部に寛文13年(1673)に修理されたという墨書が残る。</p> 
110	大	古文書	堀直奇の達し	2通	R3.2.22	市民会館	南魚沼市教育委員会	<p>坂戸城主堀直奇が支配する村に宛てた文書。1通は慶長9年(1604)に芹田村の農民への3か条の達しで、もう一通はこの3か条に納得いかなかった農民へ翌年に宛てられた達し。いずれも江戸時代初めの農村支配の様子が分かる貴重な資料である。</p> 

※ 区欄「六」=六日町地域、「大」=大和地域、「塩」=塩沢地域